

「ヨーロッパの音楽を、ヨーロッパ人の真似をして弾くのではなく、日本生まれの自分が、自分の信念に基づいて演奏したら、かえって本場で評価されるようになりました」。相曽賢一朗が私に語った言葉である。言うは易く、行なうは難し。自らの感性を信じて、信念を貫いたヴァイオリニストは、見事に国際的一流の地位を獲得した。ドイツに定住し、これまた「一流」の評価を確立しているピアニスト・濱倫子との共演は、音楽愛好家にとって、文字通り「夢に見た組合せ」と言ってもいいだろう。



ドリーム・コンビの再現
中野 雄 (音楽プロデューサー)



相曽賢一朗 ◎ヴァイオリン・ヴィオラ/Ken Aiso Violin Viola

東京藝術大学より英国王立音楽院へ留学、同音楽院首席卒業。長年ロンドンを拠点にしてソロ、室内楽、オーケストラ、教育で多彩な活動を繰り広げる。

“知性、鋭敏な様式感、説得力のある音楽性に溢れ”(指揮者Sir John Eliot Gardiner)、“格調高い、品格のある音楽。まるで、戦前の巨匠の演奏を聴いているような。”(モーストリー・クラシック誌)などと評される。

演奏活動は欧米諸国、中央アジアにまで及び、日本では1997年より毎秋、個性的なプログラムによるリサイタル・シリーズを行っている。

川田敦子、石井啓一郎、石井志都子、海野義雄、澤和樹、田中千香士、E.シュミダー、E.グルンベルクの各氏に師事。

ロン・ティボー国際コンクール、日本国際音楽コンクール入賞。英国音楽界への貢献に対して英国王立音楽院よりアソシエイト称号を授与される。近年は各国の音楽祭に定期的に招待され、演奏、講習を行なっている。平成29年度下総院一音楽賞受賞。エイジ・オブ・エンライトメント管、レヴォリュショネ・エ・ロマンティーク管他、イギリスを代表する時代楽器オーケストラで活躍、同オーケストラによるCDや放送録音に多数参加するほか、スコットランド室内管、ロンドン・フィル、ハレ管 に首席奏者として招かれている。両陛下御前演奏の栄に浴する。

クラシックの枠を超えた活動として、中村明一(尺八)、金森江仙(書家)とのコラボの他、小学生との創作コンサート、世界各国で障害を持つ子どもたちの施設や、病院での音楽による癒しの活動も積極的に行っている。

2015年よりアメリカ、ロサンゼルス・ローヨラ・マリーモント大学とラ・シエラ大学で教鞭をとる。

濱 倫子 ◎ピアノ/Rinko Hama Piano

その演奏は「見事に浮遊する歌心」「魅了されずにはいられないその深さ、そして信じられないほどの明晰さ」「濱倫子はピアノを弾くことができるだけではない。彼女はピアノを歌うことができるのである」など、ヨーロッパの各紙でも高い評価を受けている。

東京藝術大学を卒業後渡独、カールスルーエ音楽大学大学院、そしてデトモルト音楽大学演奏家国家試験課程を最優秀の成績を得て卒業。J.ミコー、杉本安子、中山靖子、湯口美和、S.シュバイデル、A.ウゴルスキらの各氏に師事。

これまで、ポルト国際ピアノ・コンクール(ポルトガル)やエピナル国際ピアノ・コンクール(フランス)他の国際コンクールで入賞・優勝。ハノーファー・ショパン協会およびバーデン文化財団より奨学金を受ける。また、文化庁新進芸術家海外研修員として研鑽を積む。

ヨーロッパを中心とした各国でのソロリサイタル、室内楽、オーケストラとの共演、そして、シュヴェツィンゲン音楽祭やベートーヴェンフェスト・ボン、モーゼル音楽祭など数多くの音楽祭への参加など、活動は幅広い。

ラジオ、CD録音も多く、ラヴェル作品を収録したソロCDや、2005年の創立から10年間在籍・活動したベートーヴェン・トリオ・ボンでの録音はいずれも高い評価を受けている。

北西ドイツ・フィル、ヴェルテンブルク・フィル、ライン・フィル州立管弦楽団、ビルゼン放送交響楽団ほかのオーケストラと共演。室内楽においても多くの演奏家からパートナーとして信頼を得て共演を重ねている。

Duo

Ken Aiso Violin, Viola & Rinko Hama Piano Duo Recital

●他公演のご案内

名古屋公演

11月20日(火)13:30開演 宗次ホール
全席自由 2,000円

宗次ホールチケットセンター 052-265-1718